



# あのとときの常呂・写真館

VOL 40

(1974年)

昭和49年10月

## ボーイスカウト常呂第1団発隊10周年記念



▶ボーイスカウト誕生(昭和39年)から10年目を迎えた昭和49年10月号の「広報ところ」からそのようすをお伝えします。

▶常呂の町にボーイスカウトが誕生して10年目…。発足当時は奇妙な帽子に淡いカーキ色の隊員服、半ズボン、ハイソックスに緑の靴下止めといった見慣れぬ少年たちのいでたちを不思議そうに眺める町民が多かった。しかし、それから10年、健康的な少年たちの笑顔に町民のまなざしは暖かい。



ボーイスカウトには現在、5つの班があり、34人の隊員がいて、各班ごとに力を合わせて作業を完成させようと努力し、兄弟のように助けあう。

…常呂隊では、今年から毎月のテーマを決め、実践活動を行っている。10月のテーマは「勤労」。町内の水産加工場を見学し、実際に働き、自分の体を動かし、そこから何かを得る。スカウトの間に自主性が高まり、

積極性が身についてきたと指導者は語る。

\*前ページの式典会場は中央公民館

\*下2枚：記念式典の後、街中をパレード



\*昭和49年に行った街頭募金のようす  
アフリカ・サハラ地方の干ばつを  
救うための募金活動

▶ボーイスカウトの野外活動は、昭和56年10月号の「広報ところ」でも紹介しています。その概要は、「網走から常呂までの33kmを歩き通す〈オホーツク銀河ロード〉という事業で、一般の参加者を含め小学校5年生以上33人が午前零時に網走駅を出発、雪がちらつく満月の空をバックに常呂を目指し、朝7時半に常呂に到着する」というハードなもの。広報では9回目と紹介しているので、10周年を迎える前年、昭和48年から行っていることになります。また、57年7月号の広報では、栄浦のキャンプ場で7人の新入隊員を迎える入隊式も紹介しています。